

国 語

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年 (調査冊数)
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書 ◆	国語 1 0 9 ・ 1 1 0 2 0 9 ・ 2 1 0 3 0 9 ・ 3 1 0 4 0 9 ・ 4 1 0 5 0 9 6 0 9	B 5 1,922	令和5年 (32冊)
17	教育出版	教 出 ◆	国語 1 1 1 ・ 1 1 2 2 1 1 ・ 2 1 2 3 1 1 ・ 3 1 2 4 1 1 ・ 4 1 2 5 1 1 ・ 5 1 2 6 1 1 ・ 6 1 2	B 5 1,998	
38	光村図書	光 村 ◆	国語 1 1 3 ・ 1 1 4 2 1 3 ・ 2 1 4 3 1 3 ・ 3 1 4 4 1 3 ・ 4 1 4 5 1 3 6 1 3	B 5 1,879	

※ 「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容 a)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 東書)

発行者の番号 略 称		学年	2 東書
内 容 a	〔知識及び技能〕の内容 の扱い	第1学年	<p>○「ことばあそび」での「しりとり」や「ことばみつけ」の活動や、「かぞえうた」での人や動物、様々な物を数える活動など、日常生活や学校生活で用いる言葉や、事物や体験したことを表す言葉等について、話や文章の中で使うことを通して、自分の語彙として身に付けていく活動を設定している。</p> <p>○「かたちの にて いる かん字」では、「人」と「入」、「貝」と「見」等の形が似ている漢字を示し、違うところに気を付けて漢字を書くことが重要であることを示している。意図的に間違った漢字を使用した例文を示し、間違っている漢字を見付けて正しい漢字に書き直すなど、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う活動を設定している。</p>
		第2学年	<p>○「主語とじゅつ語」では、「からすが 鳴く。」や「弟が おどろいた。」等の例文を通し、主語と述語の関係を理解させる内容を示すとともに、文を読んだり書いたりするときは、主語と述語の結び付きに気を付けることを示している。例文を基に、文の主語と述語を確かめるなど、主語と述語を適切に対応させることを意識させる活動を設定している。</p> <p>○「言いつたえられて いる お話を 知ろう」では、「だいだらぼう」の話を掲載するとともに、「マーヤのさるたいじ」や「やまたのおろち」等の昔話や神話・伝承の絵本を紹介し、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感させる活動を設定している。</p>
		第3学年	<p>○「国語じてんの使い方」では、「あける【明ける】」等の言葉を例に、「柱」、「つめ」、「見出し語」、「漢字を使った書き表し方」、「言葉の意味」、「言葉の使い方」等の、国語辞典の特徴について紹介している。濁音、半濁音、長音の並び方の決まりを示したり、文学的な文章「すいせんのラッパ」から、意味や使い方を調べてみたい言葉を選んで調べたりするなど、国語辞典の使い方を理解させる活動を設定している。</p> <p>○「ローマ字」では、身の回りにある様々な案内板等を掲載し、ローマ字について、「日本語は、ローマ字を使って書き表すことができます。」と示している。「ローマ字の表」を示すとともに、長音、拗音、促音等の書き表し方について説明し、ローマ字を読んだり書いたりする活動を設定している。</p>
		第4学年	<p>○「漢字辞典の使い方」では、「連」という漢字を例に、「部首・画数」、「筆順」、「成り立ち・意味」、「漢字が使われる言葉」等の、漢字辞典の特徴について紹介している。「部首さく引」、「音訓さく引」、「総画さく引」のそれぞれの使い方を説明するとともに、それらの索引を使って漢字を探すなど、漢字辞典の使い方を理解させる活動を設定している。</p> <p>○「百人一首に親しもう」では、能因法師の短歌等を通し、百人一首の歴史や特徴について紹介している。複数の短歌を掲載しており、「十人一首」のかかるた遊びという活動を設定するなど、国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりして、文語の調子に親しむ態度を育成する活動を設定している。</p>
		第5学年	<p>○「いにしえの人のえがく世界」では、清少納言の「枕草子」を掲載し、四つの季節のうちの一つを選び、自分であればその季節のどのようなところによさを感じるかを考えさせるなど、作品に直接的に表れている作者の考え方などを知り、現代人のものの見方や感じ方と比べたりして、古典への興味・関心を深めさせる活動を設定している。</p> <p>○「敬語」では、尊敬語、謙譲語、丁寧語のそれぞれについて文例を示しながら紹介し、「『先生に聞きたいことがあるので、明日、学校に行く。』と、お母さんが言っていた。」という文を、先生に伝えるときにはどのような言い方をすればよいかを考えさせるなど、児童の日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにする活動を設定している。</p>
		第6学年	<p>○「原因と結果」では、原因と結果の考え方について、アイスの売り上げと気温の関係を事例に紹介しながら示している。身の回りに起こった出来事について、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり明らかにしたりするなど、様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし、結び付けて捉えるさせる活動を設定している。</p> <p>○「言葉の移り変わり」では、「竹取物語」を例に、言葉は変わらない部分を保ちながらも、時代とともに変化してきたことについて考えさせ、変化する言葉の特質に気付き、自分たちの言葉への関心を深めさせる活動を設定している。また、同じ時代であっても、物の呼び方などは世代によって異なり、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあるということを紹介している。</p>

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容 a)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 教出)

発行者の番号 略 称		学年	17 教出
内 容 a	〔知識及び技能〕の内容 の扱い	第1学年	<p>○「ことばをつなごう」でのイラストを見ながら物の名称を平仮名で書く活動、「かたかなのことば」での身の回りにある片仮名の言葉を探す活動など、日常生活や学校生活で用いる言葉や周りの人について表す言葉、事物や体験したことを表す言葉等について、話や文章の中で使うことを通して、自分の語彙として身に付けていく活動を設定している。</p> <p>○「にている かん字」では、「人が いえに 入る。」という例文を示し、漢字を誤って使用している箇所を探すとともに、漢字には似ているものがあることに気付かせるようにしている。「大」と「犬」、「中」と「虫」等の、同じ部分がある漢字を集めるなど、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う活動を設定している。</p>
		第2学年	<p>○「主語と じゅつ語」では、「誰が(何が)、どうする」、「誰が(何が)、どんなだ」、「誰が(何が)、なんだ」という3つの文の形を提示し、主語と述語の関係について理解させる内容を示している。また、3つの文の形それぞれについて、自分で文を作るなど、主語と述語を適切に対応させることについて意識させる活動を設定している。</p> <p>○「いなばの しろうさぎ」では、古事記「いなばの しろうさぎ」について、イラストを見ながら教員の読み聞かせを聞き、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感させる活動を設定している。「いなばの しろうさぎ」の全文を掲載するとともに、古事記には他のお話もあることを紹介している。</p>
		第3学年	<p>○「国語辞典のつかい方」では、「あぶりだし【あぶり出し】」等の言葉を例に、「はしら」、「つめ」、「見出し語」、「言葉のつかい方」、「漢字をつかった書き表し方」、「言葉の意味」等の、国語辞典の特徴について紹介している。濁音、半濁音、長音の並び方の決まりを示したり、文例にある同音異義語を調べて最も適切な言葉の意味を考えたりするなど、国語辞典の使い方を理解させる活動を設定している。</p> <p>○「ローマ字」では、身の回りにある様々な案内板等を掲載し、ローマ字について、「日本の言葉は、AからZまでの文字をつかって、ローマ字で書き表すことができます。」と示している。「ローマ字表」を掲載し、「のぼす音」、「はねる音・つまる音」、「大文字・小文字」、「ローマ字のつづり方」について説明し、ローマ字を読んだり書いたりする活動を設定している。</p>
		第4学年	<p>○「漢字辞典の使い方」では、「治」という漢字を例に、「筆順」、「総画数」、「漢字の読み方」、「漢字の成り立ちや意味」、「その漢字を使った言葉のれい」等の、漢字辞典の特徴について紹介している。「部首さく引」、「総画さく引」、「音訓さく引」のそれぞれの使い方から、自分の調べやすい方法で漢字を調べるなど、漢字辞典の使い方を理解させる活動を設定している。</p> <p>○「故事成語」では、「五十歩百歩」、「漁夫の利」、「蛇足」等の意味や成り立ち等を例に、故事成語について紹介している。また、様々な故事成語を集めてカードを作り、それを友達に紹介するなど、故事成語の意味を知り、日常生活で用いることができるようにする活動を設定している。</p>
		第5学年	<p>○「『古典』を楽しむ」では、「竹取物語」、「平家物語」、「伊曾保物語」を掲載し、それぞれの古典を読んだ感想をまとめる活動等、作品に直接的に表れている作者の考え方などを知り、現代人のものの見方や感じ方と比べたりして、古典への興味・関心を深めさせる活動を設定している。</p> <p>○「敬語」では、尊敬語、謙譲語、丁寧語のそれぞれについて文例を示しながら紹介し、「弟は、本を買った。」という文のうち、「弟」を「先生」に変えて適切な文に書き改めたり、「先生が、教科書をお読まれになる。」という文について、「お読まれになる」という箇所を適切な言い方に書き改めたりするなど、児童の日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにする活動を設定している。</p>
		第6学年	<p>○「言葉は時代とともに」では、「万葉集」、正岡子規の短歌や俳句、夏目漱石の「坊つちやん」、芥川龍之介の「杜子春」の文や文章を例に、言葉は変わらない部分を保ちながらも、時代とともに変化してきたことについて考えさせ、変化する言葉の特質に気づき、自分たちの言葉への関心を深めさせる活動を設定している。</p> <p>○「三字以上の熟語の構成」では、一字の語が並ぶ「市町村」等、一字と二字の語が結び付く「諸問題」等、二字と一字の語が結び付く「演奏会」等、二字と二字の語が結び付く「登場人物」等についてそれぞれ紹介し、熟語の構成について話し合ったり、三字の熟語を考えさせたりするなど、語句の構成や変化について理解させる活動を設定している。</p>

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容 a)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 光村)

発行者の番号 略 称		学年	38 光村
内 容 a	〔知識及び技能〕の内容 の扱い	第1学年	○「ことばを さがそう」での「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」のそれぞれで始まる言葉を探す活動や、「かたかなを みつけよう」での身の回りにある片仮名の言葉を探す活動など、日常生活や学校生活で用いる言葉や、事物や体験したことを表す言葉等について、話や文章の中で使うことを通して、自分の語彙として身に付けていく活動を設定している。 ○「にて いる かん字」では、「貝」と「見」、「村」と「林」等の形が似ている漢字を示し、似ている漢字に気を付けて書くことを示している。「右」と「左」、「土」と「上」という形が似ている漢字について、書き順にも気を付けて書くなど、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う活動を設定している。
		第2学年	○「主語と述語に気をつけよう」では、「かえるくんが 言う。」「お手紙が 来る。」等の例文を通し、主語と述語の関係について理解させる内容を示している。主語は必ずしも文の始めにあるとは限らないことや、文を読むときは主語と述語のつながりに気を付けることなど、主語と述語を適切に対応させることや、文章を読むときにも主語と述語の適切な係り受けについて意識させる活動を設定している。 ○「いなばの 白うさぎ」では、古事記「いなばの 白うさぎ」について、イラストを見ながら教員の読み聞かせを聞き、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感させる活動を設定している。巻末には、「いなばの 白うさぎ」の全文を掲載し、他にどのような楽しみ方があるかを考えさせるようにしている。
		第3学年	○「国語辞典を使おう」では、「ぶか【部下】」等の言葉を例に、「はしら」、「つめ」、「見出し語」、「漢字での書きあらわし方」、「言葉の意味」、「言葉の使い方」等の、国語辞典の特徴について紹介している。濁音、半濁音、長音の並び方のきまりを示したり、複数の言葉について、どの言葉が国語辞典で先に出ているかを調べたりするなど、国語辞典の使い方を理解させる活動を設定している。 ○「ローマ字」では、身の回りには様々な案内板等を掲載し、ローマ字について、「日本語は、平がな・かたかな・漢字のほか、アルファベットのいくつかを使って、書き表すことができます。このような書き表し方を、ローマ字表記といいます。」と示している。ローマの字表を掲載し、「書き表し方の決まり」や「ローマ字入力」等について説明し、ローマ字を読んだり書いたりする活動を設定している。
		第4学年	○「漢字辞典を使おう」では、「飛」という漢字を例に、「読み方」、「成り立ち」、「意味」、「語句」等の、漢字辞典の特徴について紹介している。「部首さくいん」、「総画さくいん」、「音訓さくいん」のそれぞれの使い方から、自分の調べやすい方法で漢字を調べるなど、漢字辞典の使い方を理解させる活動を設定している。 ○「短歌・俳句に親しもう(二)」では、石川啄木や与謝野晶子等が詠んだ短歌を複数紹介している。それらの短歌について、作品に表された情景等を想像したり、国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりして、文語の調子に親しむ態度を育成する活動を設定している。
		第5学年	○「古典の世界(一)」では、「竹取物語」、「平家物語」、「方丈記」、「徒然草」を掲載し、それぞれの古典の言葉の響きを味わったり、作品に直接的に表れている作者の考え方などを知り、現代人のものの見方や感じ方と比べたりして、古典への興味・関心を深めさせる活動を設定している。 ○「敬語」では、丁寧語、尊敬語、謙譲語のそれぞれについて文例を示しながら紹介し、「先生は、今、体育館にいる。」や「氷河を毎年さつえいしている林さんに、話を聞く。」等の文について、どこを、どのように表現すればよいかについて理由とともに考えさせるなど、児童の日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにする活動を設定している。
		第6学年	○「情報と情報をつなげて伝えるとき」では、「Aとその説明(定義)の関係」、「Aとその具体例の関係」、「複数のものと、その共通点(A)という関係」について、紹介している。「地産地消」に関する報告書をより分かりやすく書き直すなど、複雑な事柄などを分解して捉えたり、多様な内容や別々の要素などをまとめたり、類似する点を基にして他のことを類推したり、一定のきまりを基に順序立てて系統化したりする活動を設定している。 ○「熟語の成り立ち」では、「漢字二字の熟語」、「漢字三字の熟語」、「漢字四字以上の熟語」のそれぞれについて紹介し、知っている漢字三字以上の熟語を書き出し、その熟語がどのような構成になっているかを考えさせるなど、語句の構成や変化について理解させる活動を設定している。

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容 b)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 東書)

発行者の番号 略 称		学年	2 東書
内 容 b	〔思考力、判断力、表現力等〕「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の言語活動	第1学年	○「話すこと・聞くこと」では、「小学校の ことを しょうかいしよう」等において、紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を、「なにに 見えるかな」において、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、『『のりものカード』を つくろう』等において、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動を、「えにつきを かこう」において、日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動を、「おはなしを かこう」等において、簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第2学年	○「話すこと・聞くこと」では、「町で 見つけた ことを 話そう」等において、紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を、「みんなで 話し合おう」等において、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、『『どうぶつカード』を 作ろう』等において、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動を、『『ありがとう』を つたえよう』において、日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動を、「絵を 見て お話を 書こう」において、簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第3学年	○「話すこと・聞くこと」では、「道具のうつかりを説明しよう」等において、説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動を、「メモを取りながら話を聞こう」において、質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「グループの合い言葉を決めよう」等において、互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「道具のひみつをつたえよう」等において、調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を、「案内の手紙を書こう」において、行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動を、「心が動いたことを詩で表そう」において、詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第4学年	○「話すこと・聞くこと」では、「調べたことをほうこくしよう」等において、説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動を、「話を聞いて質問しよう」において、質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「クラスで話し合って決めよう」等において、互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「わたしのクラスの『生き物図かん』」等において、調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を、「お願いやお礼の手紙を書こう」において、行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動を、「山場のある物語を書こう」において、詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第5学年	○「話すこと・聞くこと」では、「資料を見て考えたことを話そう」等において、意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動を、「知りたいことを聞き出そう」において、インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「問題を解決するために話し合おう」等において、それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「和の文化を発信しよう」や「どう考える? もしもの技術」等で事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を、「心の動きを短歌で表そう」において、短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第6学年	○「話すこと・聞くこと」では、「プレゼンテーションをしよう」等において、意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動を、「意見を聞いて考えよう」において、インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「話し合って考えを深めよう」等において、それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「発信しよう、私たちのSDGs」や「どう立ち向かう? もしもの世界」等において、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を、「心の動きを俳句で表そう」において、短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容 b)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 教出)

発行者の番号 略 称		学年	17 教出
内 容 b	〔思考力、判断力、表現力等〕「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の言語活動	第1学年	○「話すこと・聞くこと」では、「なつの おもいでを はなそう」等において、紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を、「みつけて はなそう、はなしを つなごう」等において、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、『『のりものカード』で しらせよう』等において、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動を、「こころが あたたくくなる 手がみ」等において、日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動を、「きこえて きたよ、こんなことば」において、簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第2学年	○「話すこと・聞くこと」では、「話したいな、聞きたいな、夏休みのこと」等において、紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を、「『クラスお楽しみ会』をひらこう」において、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「おもちゃのせつめい書を書こう」等において、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動を、「つづけて みよう 一日記」において、日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動を、「みじかい言葉で」において、簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第3学年	○「話すこと・聞くこと」では、「ちいぎの行事」等において、説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動を、「『りす公園』はどこにある?」において、質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「わたしたちの絵文字」等において、互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「取材したことをほうこく文に」等において、調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を、「自分の気持ちを手紙に」において、行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動を、「はつとしたことを詩に」において、詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第4学年	○「話すこと・聞くこと」では、「写真から読み取る」等において、説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動を、「メモの取り方のくふう」において、質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「みんなが楽しめる新スポーツ」等において、互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「リーフレットでほうこく」等において、調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を、「いろいろな手紙」において、行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動を、「作ろう!『ショートショート』」において、物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第5学年	○「話すこと・聞くこと」では、「すいせんしよう『町じまん』」等において、意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動を、「見つけたよ!」等において、インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「ミニディベート —AIとのくらし」において、それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「世界遺産 白神山地からの提言 一意見文を書こう」や「生活をよりよくする提案」等において、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を、「俳句・短歌のリズムにのせて」において、短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第6学年	○「話すこと・聞くこと」では、「自分との対話」において、意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動を、「聞かせて!『とっておき』の話」において、インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「パネルディスカッション —地域の防災」等において、それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「みんなで作ろうパンフレット」や「十二歳の主張」等において、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を、「あなたは作家」において、物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容 b)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 光村)

発行者の番号 略 称		学年	38 光村
内 容 b	〔思考力、判断力、表現力等〕「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の言語活動	第1学年	○「話すこと・聞くこと」では、「みんなに しらせよう」等において、紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を、「これは、なんででしょう」において、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「じどう車ずかんを つくろう」等において、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動を、「てがみで しらせよう」において、日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動を、「どんな おはなしができるかな」等において、簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第2学年	○「話すこと・聞くこと」では、「楽しかったよ、二年生」において、紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を、「そーだんにのってください」等において、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「おもちゃの作り方をせつめいしよう」等において、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動を、「日記を 書こう」等において、日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動を、「お話のさくしゃになろう」等において、簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第3学年	○「話すこと・聞くこと」では、「お気に入りの場所、教えます」において、説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動を、「もっと知りたい、友だちのこと」において、質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「おすすめのさつを決めよう」等において、互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「食べ物のみみつを教えます」等において、調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を、「気持ちをこめて、『来てください』」において、行事の案内やお礼の文章や日記を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動を、「四まいの絵を使って」において、詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第4学年	○「話すこと・聞くこと」では、「調べて話そう、生活調査隊」において、説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動を、「聞き取りメモのくふう」において、質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「クラスみんなで決めるには」等において、互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「新聞を作ろう」等において、調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を、「お礼の気持ちを伝えよう」において、行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動を、「言葉から連想を広げて」等において、詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第5学年	○「話すこと・聞くこと」では、『子ども未来科』で何を「する」において、意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動を、「きいて、きいてみよう」において、インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「よりよい学校生活のために」等において、それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「自然環境を守るために」や「あなたは、どう考える」等において、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を、「もう一つの物語」等において、短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。
		第6学年	○「話すこと・聞くこと」では、「今、私は、ほくは」において、意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動を、「聞いて、考えを深めよう」において、インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動を、「みんなで楽しく過ごすために」等において、それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動を、それぞれ設定している。 ○「書くこと」では、「発見、日本文化のみりよく」や「おすすめてパンフレットを作ろう」等において、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を、「たのしみは」等において、短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動を、それぞれ設定している。

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容c)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 東書)

発行者の番号 略 称		2 東書
内 容	c 【知識及び技能】(3) 「読書の意義や効用など に関する事項」の扱い	<p>第1学年</p> <p>○「としょかんは どんな ところ」では、学校図書館で読書をする児童のイラストから、学校図書館とはどのようなところなのかを考えさせるなど、身の回りにはいろいろな本があることを知る活動を設定している。「どくしょ きろくかあど」を掲載し、「ひづけ」、「ほんの だいめい」、「かいた ひと」等を記録する例を示している。</p> <p>○「すきな おはなしは なにかな」では、自分の好きなお話をカードに書いて友達に紹介するなど、児童が読書に親しみ、読書を通して様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりする活動を設定している。「しょうかいカード」を掲載し、「本の だいめい」、「すきな ところ」等を紹介する例を示している。</p>
		<p>第2学年</p> <p>○「としょかんへ 行こう」では、学校図書館の、どこに、どのような本が置いてあるかを探するなど、身の回りにはいろいろな本があることを知る活動を設定している。学校図書館は、利用者が分かりやすいように、日本十進分類法で分けられていることや、決まった順序で並べられていることなどを紹介している。</p> <p>○「本の 中の 友だち」では、本に登場する様々な人物や動物を紹介し合ったり、紹介された本を読んで感想を伝え合ったりすることを通して、児童が読書に親しみ、読書を通して様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりする活動を設定している。紹介カードを掲載し、「本の 中の 友だち」、「本の だい名」、「さくしゃ」、「とくちょう」、「すきな ところ」等を記録する例を示している。</p>
		<p>第3学年</p> <p>○「図書館へ行こう」では、百科事典や図鑑の目次、索引の活用方法について紹介している。また、日本十進分類法(NDC)や本のラベル(請求記号)を手掛かりに、学校図書館で本を探す活動や、読んだ本を読書記録カードに記録する活動など、学校図書館の利用方法や、必要な本などの選び方を身に付ける活動を設定している。</p> <p>○「本から発見したことをつたえ合おう」では、ノンフィクションの本や図鑑などを読んで、はじめて知ったことや知って驚いたことをカードに書き、友達に紹介するなど、読書によって、新しい世界に触れて自分の興味が広がることの楽しさを味わう活動を設定している。「本から発見カード」を掲載し、「本の題名」、「書いた人」、「出版社名」、「本から新しく知ったこと」、「感想」等を記録する例を示している。</p>
		<p>第4学年</p> <p>○「図書館へ行こう」では、日本十進分類法、本のラベル(請求記号)、奥付等について紹介している。日本十進分類法に基づき、十区分から一冊ずつ選び、自分だけの「十さつミニ図書館を作ろう」という活動を設定するなど、学校図書館の利用方法や、必要な本などの選び方を身に付ける活動を設定している。</p> <p>○「ブックトークをしよう」では、グループでテーマを決め、何冊かの本を紹介し合うなど、読書によって、新しい世界に触れて自分の興味が広がることの楽しさを味わう活動を設定している。ブックトークの例を掲載しており、「初めの言葉」、「一さつ目の本のしょうかい」、「次の本につなぐ言葉」等を示している。</p>
		<p>第5学年</p> <p>○「図書館へ行こう」では、様々な分野の事柄を知るための「百科事典」、言葉の意味や使い方などを知るための「国語辞典」、数量・数値・割合を知るための「年間・年表」を、特定分野の情報を知るための「事典」や「図鑑」、新しい情報を知るための「雑誌」、「新聞」、「インターネット」を、それぞれ紹介し、目的に応じて適切な本や資料を選ぶことについて示すなど、図書館の利用方法や、必要な情報の選び方を身に付ける活動を設定している。</p> <p>○「読書の世界を広げよう」では、同じ作者・筆者が書いた本や同じテーマで書かれた本など、関連する別の本を探して「読書マップ」を作るなど、読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付く活動を設定している。「読書マップ」の中心に位置する本を決める際は、読書記録を見返すことを示している。</p>
		<p>第6学年</p> <p>○「社会教育施設へ行こう」では、図書館、文学館、歴史資料館、博物館、科学館、美術館等の社会教育施設を紹介し、目的に応じた情報収集の方法や、「読書・情報カード」を使った体験の記録方法等を示すなど、社会教育施設の利用方法や、必要な情報の選び方を身に付ける活動を設定している。具体的な施設として、「江戸川区角野栄子児童文学館」や「練馬区立美術館」等を紹介している。</p> <p>○「心に残った、この一文」では、読書体験を振り返り、自分にとっての大切な一文を記録する活動等を示し、「カードに書く」、「数人で話す」、「SNSなどで共有する」等、伝え合うための様々な方法を紹介するなど、読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付く活動を設定している。</p>

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容c)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 教出)

発行者の番号 略 称		17 教出
内 容	c 【知識及び技能】(3) 「読書の意義や効用など に関する事項」の扱い	<p>第1学年</p> <p>○「としよかんへ いこう」では、学校図書館で読書をする児童のイラストを掲載し、学校図書館で読みたい本を探すなど、身の回りにはいろいろな本があることを知ることができる活動を設定している。友達に本を紹介したり、好きな箇所を読み聞かせたりする例を示している。</p> <p>○「『おはなしどうぶつえん』をつくろう」では、動物が登場する本を読んで、「本の 名前」や「かいた 人」等を記録するカードを書き、作成したカードを同じ動物ごとにまとめ、「おはなしどうぶつえん」を作る活動を設定するなど、児童が読書に親しみ、読書を通して様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることができる活動を設定している。</p>
		<p>第2学年</p> <p>○「本で しらべよう」では、学校図書館を児童が利用する様子が描かれたイラストを掲載している。探している本について司書教諭に尋ねる様子や、日本十進分類法で分類された本棚で本を探す様子など、学校図書館の使い方を紹介し、身の回りにはいろいろな本があることを知ることができるようにしている。</p> <p>○「『お話びじゅつかん』を作ろう」では、読んだ本の中で最も心に残った箇所を絵やカードにかいて紹介し合い、カードを教室や廊下に掲示し、「お話びじゅつかん」を作る活動を設定するなど、児童が読書に親しみ、読書を通して様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりする活動を設定している。</p>
		<p>第3学年</p> <p>○「本をさがそう」では、「図書館マップ」を掲載し、学校図書館の本は、日本十進分類法で分類されていることを紹介するなど、学校図書館の利用方法や、必要な本などの選び方を身に付ける活動を設定している。昆虫に関する事典を数点示し、本には、目次・索引、前書き・後書き、奥付等があることを紹介するとともに、「本のつくり」について説明している。</p> <p>○「『おすすめ図書カード』を作ろう」では、自分の紹介したい本でカードを作って友達に伝えるなど、読書によって、新しい世界に触れて自分の興味が広がることの楽しさを味わう活動を設定している。「おすすめ図書カード」を掲載し、「すいせん者」、「この本をすすめます。」、「おすすめじょうほう」、「読んだ人から」等を示し、その事例を紹介している。</p>
		<p>第4学年</p> <p>○「分類をもとに本を見つけよう」では、日本十進分類法、本のラベルの記号、本棚の分類記号について紹介するとともに、本を探すときは、一つの類からだけではなく、他の類からも探すことで様々な本を見付けることができることを示すなど、学校図書館の利用方法や、必要な本などの選び方を身に付ける活動を設定している。</p> <p>○「『読書発表会』をしよう」では、一つのテーマに沿って紹介したい本を何冊か選んで発表するなど、読書によって、新しい世界に触れて自分の興味が広がることの楽しさを味わう活動を設定している。読書発表会に向けて、紹介する本の順番を決め、組み立てメモを基に発表内容を考える活動も設定している。</p>
		<p>第5学年</p> <p>○「図書館を活用しよう」では、「百科事典やずかん、ねんかんなど」、「新聞」、「ざっし」、「自治体のパンフレット」等、図書館にある様々な資料について紹介している。インターネットで情報を検索する方法を紹介し、「アドレスバー」に直接URLを入力する方法や、「けんさくボックス」に調べたいことを入力する方法を示すなど、図書館の利用方法や、必要な情報の選び方を身に付ける活動を設定している。</p> <p>○「『図書すいせん会』をしよう」では、新聞やポスター、ポップや帯紙等を作成して「図書すいせん会」を開き、感想を伝え合うなど、読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付く活動を設定している。ポスターの作成例では、ポスターの内容として「宣伝文句」、「題名」、「作者名」、「すいせん文」を示し、その事例を紹介している。</p>
		<p>第6学年</p> <p>○「地域の施設を活用しよう」では、博物館・資料館、文学館・記念館、公共図書館、防災センター等の地域の施設の活用について示しており、身の回りには情報を探するための様々な施設があることを示すなど、地域の施設の利用方法や、必要な情報の選び方を身に付ける活動を設定している。具体的な施設として、「国立アイヌ民族博物館」や「江戸川区角野栄子児童文学館」等を紹介している。</p> <p>○「『読書タイムライン』を作って交流しよう」では、「読書タイムライン」をえがき、これまでに読んできた本を振り返り、テーマを決めて本を三冊紹介するなど、読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付く活動を設定している。自分の読書を振り返る際は、「学年とともに変化があったか。」、「自分が好きな本の種類や、選ぶ本にかたよりはあったか。」等の視点を示している。</p>

「採択資料1-1」【都立小学校調査研究資料(内容c)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語(発行者 光村)

発行者の番号 略 称		38 光村
内 容	c 【知識及び技能】(3) 「読書の意義や効用など に関する事項」の扱い	学年 第1学年 ○「としょかんへ いこう」では、学校図書館で児童が本を探す様子や読書をする様子が描かれたイラストを掲載している。読んだ本をもとの本棚に戻すことなど、学校図書館でのマナーについて示すとともに、身の回りにはいろいろな本があることを知ることができるようにしている。 ○「むかしばなしを よもう」では、学校図書館で昔話の本を探し、読んだ本をカードに書いて友達に紹介するなど、児童が読書に親しみ、読書を通して様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりする活動を設定している。「ながぐつをはいたねこ」等の外国の昔話を紹介するとともに、グリム童話「おかゆの おなべ」の全文を掲載している。
		第2学年 ○「図書館たんけん」では、学校図書館を児童が利用する様子が描かれたイラストを掲載し、学校図書館の本はどのように分類されているかを調べようという活動や、身の回りにはいろいろな本があることを知る活動等を設定している。読んだ本をノートやカードに記録する例も示している。 ○「お気に入りの本をしょうかいしよう」では、自分の読書記録等を読み返し、どのような本が好きかを考えさせる活動や、お気に入りの本を読んで「しょうかいメモ」を書き、友達に本を紹介する活動など、児童が読書に親しみ、読書を通して様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりする活動を設定している。
		第3学年 ○「図書館たんていだん」では、学校図書館の本は日本十進分類法で分類されていることを示し、グループで学校図書館の地図を作り、どの本棚に、どのような種類の本があるかを調べる活動を設定している。読みたい本や必要な本を探す方法として、「本のしょうかいコーナーを見る」ことや「たなの番号を見る」ということを示すなど、学校図書館の利用方法や、必要な本などの選び方を身に付ける活動を設定している。 ○「本で知ったことをクイズにしよう」では、本を読んで初めて知ったことをクイズにして、友達とクイズを出し合うなど、読書によって、新しい世界に触れて自分の興味が広がることの楽しさを味わう活動を設定している。本の読み方について、「ていねいに読む」、「おおまかに読む」、「目次からえらんで読む」、「さくいんからさがして読む」などを示している。
		第4学年 ○「図書館の達人になろう」では、知りたいことに合った本を探すために、「たなの番号を見る」、「ラベルを見る」、「司書の先生にさぐ」、「百科事典や図鑑で調べてから、よりくわしい本をさがす」といった方法を紹介するなど、学校図書館の利用方法や、必要な本などの選び方を身に付ける活動を設定している。 ○「本のポップや帯を作ろう」では、読んだ本の良さをポップや帯を作って伝え合うなど、読書によって、新しい世界に触れて自分の興味が広がることの楽しさを味わう活動を設定している。ポップに書くことの例を掲載しており、心に残った文を引用したり、キャッチコピーを書いたりすることなどを示している。
		第5学年 ○「図書館を使いこなそう」では、学校図書館は日本十進分類法に従って本を分類・整理していることや、著作権を尊重することの必要性について示している。「自分の好きな食べ物や生きもの」や「自分のきょうみのあること」等、テーマやキーワードを決め、複数の本棚から本を探すなど、学校図書館の利用方法や、必要な情報の選び方を身に付ける活動を設定している。 ○「作家で広げるわたしたちの読書」では、作家に着目して友達と本を紹介し合い、本を読み広げていくなど、読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付く活動を設定している。「しょうかいカード」を掲載し、紹介する作家やその作品の魅力、キャッチコピー等の例を示している。
		第6学年 ○「公共図書館を活用しよう」では、公共図書館の様々な資料やサービスの利用方法の例を示しており、地域の公共図書館で利用してみたい資料やサービスについて伝え合う活動を設定している。また、図書館以外の施設の利用について示しており、文学館、博物館、資料館、美術館等を紹介し、様々な施設の利用方法や、必要な情報の選び方を身に付ける活動を設定している。 ○「私と本」では、「本を読んで知ったことや考えたことから、どのように知識や考えを深めたり広げたりしていますか。」という学習課題を設定し、これまでの読書を振り返り、印象深い本について話し合ったり、テーマに着目して複数の本を読むなど、読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付いたりする活動を設定している。

文種	作品名	氏名
説明的な文章	はじめて よんだ ほん	かどのえいこ
	子どもを まもる どうぶつたち	なるしまえつお
	たんぼほ	ひらやまさこ
	本は あたらしい せかいへの 入り口	こぼやしよつぐ
	イルカと 話したい	むらやまつかさ
	ヒーローの 大工事	なかがわしろう
	あなの やくわり	にいたゆみこ
	自然のかくし絵	矢島裕
	心の養分	茂市久美子
	ジャイアンとぼく	木村昂
	せつちやくさいの今と昔	早川典子
	ペンギンの体に 飛ぶしくみを見つけた!	山本省三
	カミツキカメラは悪者か	松沢陽士
	ヤドカリとインゲンチャク	武田正倫
	本は楽しむもの	米村でんじろう
	「できない」の先に	吉藤オリイ
	まなぶ	長倉洋海
	数え方を生み出そう	飯田朝子
	インターネットは冒険だ	藤代裕之
	すてきなこと	あさのあつこ
	全ては、一つの言葉から	鳥井晋
	和の文化を受けつぐ 一和菓子をかざる	中山圭子
	「弱いロボット」だからできること	岡田英智男
	手塚治虫	国松俊英
	宮沢賢治	西本建介
	イースター島にはなぜ森林がないのか	野谷いつみ
	本がいさなう、もう一つの世界へ	上橋菜穂子
	世界は必ず変えられる	中満泉
	「永遠のこみ」プラスチック	保坂直紀
	古典芸能への招待状	中野貴文
	宇宙からのながめが教えてくれること	油井亀美也
	食品からつながる宇宙	込山立人
宇宙に生命の起源を求めて	数田ひかる	
君たちに伝えたいこと	日野真重明	
とん こと とん	ふしかえつこ	
おおきな かぶ	うちだりさこ (訳)	
かいがら	もりやまみやこ	
サラダで げんき	かどのえいこ	
おとうとねすみ チロ	もりやまみやこ	
きいろい ぼけつ	もりやまみやこ	
スイミー	レオ・レオニ	
花さかじいさん	いしざきひろし	
風の ゆうひんやさん	たけしたふみこ	
名前を 見て ちょうだい	あまんきみこ	
コヤク	みやじしたつや	
かさこじぞう	いわさききょうこ	
さかなには なぜ したが ない	かんざわとしこ	
お手紙	アーノルド・ローベル	
おらは	アーノルド・ローベル	
すいせんのラッパ	工藤直子	
ワニのおじいさんのたから物	川崎洋	
サーカスのライオン	川村たかし	
モチモチの木	斎藤隆介	
ゆうすげ村の小さな旅館—ウサギのダイコン	茂市久美子	
クマの風船	茂市久美子	
こわれた千の楽器	野呂昶	
走れ	村中季衣	
二つの花	今西祐之	
こんぎつね	新美南吉	
世界一美しいほくの村	小林豊	
世界一美しい村へ帰る	小林豊	
おにぎり石の伝説	戸森しるこ	
世界でいちばんやかましい音	ベンヤミン・エルキン	
注文の多い料理店	宮沢賢治	
大進いさんとがん	橋鳩十	
魔女の宅急便	角野栄子	
さなぎたちの教室	安東みきえ	
風切るつばさ	木村裕一	
模型のまち	中澤晶子	
海のいのち	立松和平	
「タレカ」をさがす冒険	赤羽じゅんこ	
ヒロシマのうた	今西祐行	
たべもの	なにかえとしお	
ま	やまなかとしこ	
あめです	とよたかずひこ	
あひるの あくび	まささちお	
あるけ あるけ	つるみまさお	
ありがとう	しょうじたけし	
みみずの たいそう	かんざわとしこ	
おわかの ほる	あおとかいち	
たんぼほ	かわさきひろし	
いるか	たにかわしゅんたろう	
いろんな おとの あめ	きしだえりこ	
空に ぐうんと 手を のぼせ	しんざわとしこ	
あまやどり	つるみまさお	
春の子ども	門倉諒	
野川	武蔵悦子	
ふきのとう	みずかみかずよ	
西瓜の詩	山村暮鳥	
紙ひこうき	神沢利子	
夕日がせなかをとおして	阪田寛志	
ほくが ここに	まど・みちお	
ぶどう	与田準一	
ちらちらゆき	まど・みちお	
水平線	小泉周二	
蝶々	山村暮鳥	
てんとうむし	都築益世	
おれはかまきり	かまきりゆうじ	
ふしぎ	金子みすゞ	
よかったなあ	まど・みちお	
きみに	和合亮一	
風のあと	北原白秋	
秤	木坂涼	
ほくらのもの	与田準一	
春の河	山村暮鳥	

文種	作品名	氏名
詩歌	カラス窓の向うで	原直道
	積乱雲	大越桂
	未知へ	木村信子
	落葉	はたちよしこ
	草が枯れるのは	岸田裕子
	いのち	小海永二
	五月	室生犀星
	テニス	竹中郁
	祖母	三好達治
	いま始まる新しいま	川崎洋
	素朴な琴	八木重吉
	手紙	武蔵悦子
	春に	谷川俊太郎
	短歌	東直子
	俳句	小林一茶
	俳句	中村汀女
	短歌	俵万智
	俳句	山口素堂
	短歌	岡本かの子
	俳句	鷹羽狩行
	短歌	木下利玄
	俳句	神野紗希
	俳句	松尾芭蕉
	俳句	和田希因
	俳句	村上東城
	俳句	与謝蕪村
	俳句	中村草田男
	俳句	小林一茶
	俳句	高野素十
	俳句	上嶋貞貴
	俳句	飯田蛇笏
	俳句	松永貞徳
俳句	山口誓子	
俳句	正岡子規	
俳句	高浜虚子	
短歌	服部真里子	
俳句	小林一茶	
俳句	久保野江	
短歌	橘曙野	
短歌	内藤鳴雪	
短歌	荻原裕幸	
俳句	与謝蕪村	
短歌	能因法師	
短歌	嵯峨天皇	
短歌	山部赤人	
短歌	猿丸大夫	
短歌	小野小町	
短歌	光孝天皇	
短歌	紀友則	
短歌	紀貫之	
短歌	壬生忠見	
短歌	左京大夫顯輔	
短歌	石川啄木	
短歌	川端茅舎	
短歌	正岡子規	
俳句	高野素十	
俳句	中村汀女	
短歌	上杉廬山	
短歌	斎藤茂吉	
俳句	木下夕爾	
短歌	吉川宏志	
俳句	尾崎放哉	
短歌	伊藤左千夫	
俳句	山口誓子	
短歌	種村弘	
短歌	小島なお	
俳句	高浜虚子	
俳句	日野草城	
短歌	荻原裕幸	
俳句	神野紗希	
俳句	村上朝彦	
短歌	大江千里	
俳句	早坂類	
俳句	松本たふこ	
短歌	千葉聡	
俳句	井上弘義	
徒然草	兼好法師	
おくのほそ道	松尾芭蕉	
字問のすゝめ	福沢諭吉	
枕草子	清少納言	
論語	孔子	
春暁	孟浩然	

	男性	女性
説明的な文章	62.5%	37.5%
文学的な文章	50.0%	50.0%
詩歌・古典	74.3%	25.7%
全体	67.2%	32.8%

文種	作品名	氏名	
説明的な文章	つみへの ながい たび	いまえよしども	
	みぶりで つたえる	のむらまさいち	
	すみれとあり	やさまよしこ	
	めだか	杉浦宏	
	くらしと絵文字	太田幸夫	
	花を見つける手がかり	吉原順平	
	ウミガメの命をつなぐ	松田乾	
	くらしを便利にするために	太田正巳	
	言葉と事実	福沢周亮	
	世界遺産 白神山地からの提言 ―意見文を書こう	斎藤宗勝	
	白神山地の自然保護―「緩衝地域」の役割―	牧田肇	
	まんがの方法	石田佐恵子	
	みずとさかしの旅―みんなちがって、みんないい	矢崎節夫	
	人とねすみの「はい、チーズ！」	佐藤雅彦	
	書は新しいエネルギー	堀山政良	
	ほくの世界 君の世界	西研	
	津田梅子―未来をまきひらく「人」への思い	高橋裕子	
	書屋	篠まどか	
	文学的な文章	けんかした 山	あんどうみきお
		スイミ	レオ=レオニ
お手がみ		アーノルド=ローベル	
天に のぼった おやけさん		みずたにしょうぞう	
のんびり森の ぞうさん		かわきたりょうじ	
はるねこ		かんのゆうこ	
きつねの おきやくさま		あまんきみこ	
いなほの しろうさま		ふくながたけひこ	
わにのおいしいさんのたからもの		かわさきひろし	
いすまくん		かどのえいこ	
ないた赤おに		はまだひろすけ	
かさこじぞう		いわさききょうこ	
アレクサンダーとぜんまいねずみ		レオ=レオニ	
白い花ひら		やえがしなおこ	
紙ひこうき、きみへ		野中稔	
わすれられないおくりもの		スーザン=パーレイ	
モチモチの木		斎藤隆介	
おにたのぼうし		あまんきみこ	
葉っぱ		蜂飼耳	
白いぼうし		あまんきみこ	
一つの花		今西祐行	
レモン自転車		田丸雅智	
走れ		村中季衣	
こんぎつね		新美南吉	
木童うるし		木下直吉	
いつか、大切なところ		魚住直子	
大造じいさんとがん		橋田寿賀子	
雪わたり		宮沢賢治	
二人の旅人たち		シェーン=エイキン	
あの坂をのぼれば		杉みき子	
川とノリオ		いぬいとみこ	
フラッキーの話		梨木香歩	
きつねの窓		安房直子	
「迷子」		日高敏隆	
詩歌		あいうえおの うた	まど・みちお
	がまぐけこの うた	まど・みちお	
	きやくまの うた	まど・みちお	
	あめの うた	つるみまさお	
	ゆき	かわさきひろし	
	ちいさい おおきい	こうやまよしこ	
	てんとうむし	かわさきひろし	
	せかいしゅうの海が	みずたにまさる (訳)	
	かえるのひよん	谷川俊太郎	
	めだかの学校	茶木滋	
	夕日がせなかをおしてくる	飯田寛夫	
	いちばんほし	まど・みちお	
	春のうた	草野心平	
	あり	ロベール=デスノス	
	へび	ジュール=ルナル	
	ミドリカナヘビ	ジュール=ルナル	
	ニンジン	まど・みちお	
	ケムシ	まど・みちお	
	ミミズ	まど・みちお	
	おおきな木	島田陽子	
	積った雪	金子みすゞ	
	水平線	小泉周二	
	うぐいす	武龍悦子	
	素朴な琴	八木重吉	
	鳴く虫	高橋元吉	
	山のあなた	カール=フッセ	
	雪	三好達治	
	はたはたのうた	室生犀星	
	大漁	金子みすゞ	
	わたしと小鳥とすずと	金子みすゞ	
	風景 純銀もさいく	山村暮鳥	
	雨ニモマケズ	宮沢賢治	
	イナゴ	まど・みちお	
	紙風船	黒田三郎	
	俳句	山崎早希子	
	俳句	小林一茶	
	俳句	与謝蕪村	
	俳句	高野素十	
	俳句	山口覚子	
	俳句	松尾芭蕉	
	俳句	正岡子規	
	俳句	中村汀女	
	俳句	飯太紙	
	俳句	篠まどか	
	俳句	松尾芭蕉	
	俳句	水原秋桜子	
	俳句	星野立子	
	俳句	山口覚子	
	短歌	持統天皇	
	短歌	藤原敏行	
	短歌	藤原定家	
	短歌	良寛	
	短歌	与謝野晶子	

文種	作品名	氏名
詩歌	短歌	若山牧水
	短歌	寺山修司
	俳句	正岡子規
	俳句	小林一茶
	短歌	紀貫之
	短歌	大伴家持
	短歌	柿本人麻呂
	短歌	山部赤人
	短歌	阿部仲麻呂
	短歌	光孝天皇
	短歌	平兼盛
	短歌	源経信
	短歌	藤原顕輔
	短歌	藤原定家
	俳句	山口素堂
	俳句	小林一茶
	短歌	大伴家持
	短歌	野口雨情
	短歌	俵万智
	短歌	志貴皇子
俳句	松尾芭蕉	
短歌	柿本人麻呂	
俳句	与謝蕪村	
短歌	寂蓮法師	
俳句	松尾芭蕉	
短歌	山部赤人	
短歌	柿本人麻呂	
短歌	正岡子規	
短歌	正岡子規	
俳句	正岡子規	
俳句	正岡子規	
古典	落語 そろそろ	三遊亭八窓
	春暁	孟浩然
	静夜思	李白
	狂言 附子	木下順二
	枕草子	清少納言
	坊つちやん	夏目漱石
	杜子春	芥川龍之介
	徒然草	兼好法師
	おくのほそ道	松尾芭蕉
	アイヌ神謡集	知里幸重 (訳)
おもろそし	外間守善	

	男性	女性
説明的な文章	77.8%	22.2%
文学的な文章	51.5%	48.5%
詩歌・古典	84.8%	15.2%
全体	76.2%	23.8%

文種	作品名	氏名	
説明的な文章	つぼみ	かわきたあつし	
	どうぶつ 赤ちゃん	ますいみつこ	
	たんぼほの ちえ	うえむらとしお	
	どうぶつ園のじゅい	うえだみや	
	紙コップ花火の作り方	まるぼやしきわこ	
	ロボット	さとうともまさ	
	文様	熊谷博人	
	こまを楽しむ	安藤正樹	
	鳥になつたきょうりゅうの話	大島英太郎	
	すがたをかえる大豆	国分牧衛	
	ありの行列	大滝哲也	
	思いやりのデザイン	木村博之	
	アップとルースで伝える	中谷日出	
	神様の階段	今森光彦	
	あせの慣わり	天野達郎	
	未来につなぐ工芸品	大牧圭吾	
	風船でうちゅうへ	岩谷圭介	
	見立てる	野口慶	
	言葉の意味が分かること	今井むつみ	
	固有種が教えてくれること	今泉忠明	
	やなせたかしーアンパンマンの勇氣	桶久美子	
	想像力のスイッチを入れよう	下村健一	
	笑うから楽しい	中村真	
	時計の時間と心の時間	一川誠	
	星空を届けたい	高橋真理子	
	ユニバーサルデザイン×天文教育	高橋真理子	
	イーハトーヴの夢	畑山博	
	『鳥獣戯画』を読む	高畑勲	
	考えることとなやむこと	浦上尚史	
	考えることを考え続ける	石黒浩	
	考える人の行動が世界を変える	中瀧泉	
	人間は他の生物と何が違うのか	福岡伸一	
	平和のとりでを築く	大年田稔	
	文学的な文章	はなの みち	おかのぶこ
		おおきな かぶ	さいこうたけひこ（訳）
		おむすびころりん	ほそべただし
		やくそく	こかせさち
		くじらくも	なかがわりえこ
		たぬきの 糸車	きしなみ
		おかゆの おなべ	さいとうひろし
		ずうと、ずうと、大すきだよ	ハンス＝ウィルヘルム
		わらしべちょうしゃ	はちかいみみ
		ふきのとう	くどうなおこ
		スイミ	レオレオニ
		ミラーのすてきなぼうし	またむらさとし
いなばの 白うさぎ		なかがわりえこ	
お手紙		アーノルド＝ローベル	
みまのたからもの		はちかいみみ	
スーホの白い馬		おおつかゆうぞう	
おちば		アーノルド＝ローベル	
せかいーの話		またしょうすけ	
春風をたどって		如月かずさ	
まいこのかき		斉藤倫	
ちいちゃんのかげおくり		あまんきみこ	
三年どうけ		李錦玉	
モチモチの木		斎藤隆介	
メロディー大すきなわたしのピアノ		くすのきしげのり	
白いぼうし		あまんきみこ	
二つの花		今西祐行	
こんぎつね		新美南吉	
友情のかべ新聞		はやみねかおる	
スワンレイクのほとり		小手鞠るい	
手ぶくろを買いに		新美南吉	
銀色の裏地		石井睦美	
モモ		ミヒヤエル＝エンデ	
たすねびと		朽木祥	
大達じいさんとガン		橋鳩十	
チェロの木		いせひでこ	
降り連		森絵都	
やまなし		宮沢賢治	
ほくのブック・ウーマン		ヘンリー・ヘンソン	
海の命		立松和平	
詩歌		あさの おひさま	かんざわとしこ
		あいうえおで あそぼう	なかがわりえこ
		いちねんせい の うた	なかがわりえこ
		ともだち	まど・みちお
		そうさんの ぼうし	なかがわりえこ
		きつとぎってかかってきつて	たにかわしゆんたろう
	かたつむりのゆめ	かたつむりでんきち	
	おいわい	にじひめこ	
	たんぼほ	まど・みちお	
	はなが さいた	まど・みちお	
	みんな	たにかわしゆんたろう	
	雨のうた	つるみまさお	
	ことこ	たにかわしゆんたろう	
	赤とんぼ	まど・みちお	
	やま	かんざわとしこ	
	ねこのこ	おおくぼていこ	
	おとのほなびら	のろさかん	
	ほんたいことば	はらだなおとも	
	わるいこわとりいるわ	いしづちひろ	
	わかば	まど・みちお	
	どきん	谷川俊太郎	
	みどり	内田麟太郎	
	うみ	林柳波	
	ふじ山	巖谷小波	
	はなび	鶴見正夫	
	わたしと小鳥とずすと	金子みすゞ	
	夕日がせなかをおしてくる	飯田寛夫	
	あおぞら	まど・みちお	
	ゆき	川崎洋	
	(タイトルなし)	和田誠	
	(タイトルなし)	はせみつこ	
	あした	石津ちひろ	
	たいこ	谷川俊太郎	

文種	作品名	氏名
詩歌	なみ	内田麟太郎
	かいだん	関根栄一
	かがやき	羽曾部忠
	春のうた	草野心平
	忘れもの	高田敏子
	はくは川	飯田寛夫
	はばたぎ	羽曾部忠
	まんげつ	みずかみかずよ
	月	こやま峰子
	上弦の月	堀田美幸
	ニンジン	まど・みちお
	銀河	羽曾部忠
	かんがえるのって おもしろい	谷川俊太郎
	かほちやのつるが	原田直友
	われは草なり	高見順
	蛇	ジュール＝ルナール
	するめ	まど・みちお
	土	三好達治
	ゆうぐれの松林	八木重吉
	一ぼんみじかい抒情詩	寺山修司
	風をみた人はいなかった	岸田裕子
	創造	羽曾部忠
	準備	高階一
	せんねん まんねん	まど・みちお
	名づけられた葉	新川和江
	〈ほくほく〉	八木重吉
	動物たちの恐ろしい夢のなかに	川崎洋
	うぐいす	武鹿悦子
	生きる	谷川俊太郎
	俳句	松尾芭蕉
	俳句	松尾芭蕉
	俳句	与謝蕪村
	俳句	与謝蕪村
	俳句	小林一茶
	俳句	小林一茶
	短歌	良寛
	短歌	藤原敏行
	短歌	紀貫之
	短歌	猿丸大夫
	俳句	水原秋櫻子
	俳句	高野素十
	短歌	志貴皇子
	短歌	光孝天皇
	短歌	伊勢大輔
	俳句	服部鷹甫
俳句	与謝蕪村	
俳句	小林一茶	
俳句	高浜虚子	
俳句	高橋淡路女	
俳句	阿波野青歌	
短歌	山上憶良	
短歌	在原業平	
俳句	山口青邨	
短歌	石川啄木	
短歌	与謝蕪村	
短歌	佐佐木信綱	
俳句	正岡子規	
俳句	高浜虚子	
俳句	杉田久女	
俳句	馬場移公子	
俳句	松根東洋城	
俳句	中村汀女	
俳句	落合水尾	
俳句	日野草城	
俳句	飯田蛇笏	
俳句	松本たかし	
俳句	小林一茶	
俳句	高浜虚子	
俳句	飯田麟太	
俳句	江左尚白	
俳句	与謝蕪村	
俳句	夏目漱石	
俳句	相馬蓮子	
俳句	斎藤茂吉	
俳句	星野立子	
短歌	西山泊臺	
短歌	橘曙覧	
短歌	橘曙覧	
短歌	島木赤彦	
俳句	日野草城	
俳句	鈴木真砂女	
俳句	藤原公美	
俳句	与謝蕪村	
俳句	正岡子規	
短歌	宮城二	
俳句	阿波野青歌	
俳句	長谷川素逝	
古典	枕草子	清少納言
	方丈記	鴨長明
	徒然草	兼好法師
	論語	孔子
	春曉	孟浩然
大地の文	福沢諭吉	

	男性	女性
説明的な文章	75.8%	24.2%
文学的な文章	57.9%	42.1%
詩歌・古典	76.7%	23.3%
全体	72.8%	27.2%

「採択資料2」【小学校調査研究(内容の総括表)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語

項目	a [知識及び技能]の内容を取り上げている箇所 我が国の特色や文化に関する事項	b [思考力, 表現力, 判断力等]「話すこと・聞くこと」の言語活動別の主な単元数				c [思考力, 表現力, 判断力等]「書くこと」の言語活動別の主な単元数				d [思考力, 表現力, 判断力等]の「読むこと」の文種別作品数					e 発展的な内容を取り上げている箇所	
		説明・報告等	質問・インタビュー等	少人数・学級全体での話し合い等	計	説明的な文章を書く(調べたことを報告する・意見を述べる等)	等実用的な文章を書く(日記、手紙や案内)	語文学的な文章を書く(短歌・俳句・詩・物語・随筆等)	計	説明的な文章	文学的な文章	詩歌 (詩) (俳句・短歌)		(古典)(漢詩・漢文を含む)		計
東書	189	16	5	11	32	26	4	7	37	44	30	55	63	11	203	0
教出	146	13	7	13	33	31	6	6	43	28	28	44	37	12	149	0
光村	160	8	8	17	33	27	7	14	48	34	32	68	58	10	202	0
平均値	165.0	12.3	6.7	13.7	32.7	28.0	5.7	9.0	42.7	35.3	30.0	55.7	52.7	11.0	184.7	0.0

※第1学年入学期の教材、巻末資料(付録等)及び別冊に掲載されているものは数に含めていない。

・表中の平均値は、項目ごとの各発行者の平均を小数第二位で四捨五入した値を示している。

・b、cは各領域の言語活動別の主な単元の数を示している。

・dは文種別作品数を示している。なお、文学的な文章(昔話)、詩歌等の詩、俳句・短歌、古典、漢詩の数は、「別紙2-1」の「[知識及び技能]の内容を取り上げている箇所の名称」で扱っている作品も含めた数を示している。

・eは教科書に「発展」の表記がある単元又は資料の数を示している。

「採択資料3」【小学校調査研究(内容から抜粋)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語

発行者	東書	教出	光村
神話や伝承を知り、日本の文化や伝統に関心をもたせる資料	あり	あり	あり
北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし
防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり
オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	なし	あり
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	あり	あり	あり

「採択資料4」【小学校調査研究(構成上の工夫)】都立立川国際中等教育学校附属小学校 国語

項目 発行者	ア 巻末資料		イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫	ウ ユニバーサルデザインの視点	エ デジタルコンテンツの扱い	オ その他
	漢字のページ数	その他(漢字以外)のページ数				
東書	100	159	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の巻末で「一年生で 学しゆうする『ことばの力』」というページ、第2学年以上の冒頭では「『言葉の力』を集めよう」というページを、それぞれ設定し、当該学年で身に付けさせたい言葉の力を領域別に示し、1年間の見通しをもつことができるようにしている。 ・第2学年以上の冒頭で「国語の学習の進め方」というページを設定し、「思い出そう」、「見通す」、「取り組む」、「ふり返る」、「生かそう」というような学習過程を示している。 ・第2学年以上の冒頭で「国語のノートの作り方」、第3学年以上の冒頭で「デジタルノートの作り方」を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントを採用している。また、全ての児童の色覚特性に適應するデザインを採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードがあり、学習に役立つ様々な資料を、ウェブサイトで閲覧することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年から第4学年までは、上・下巻の2分冊となっている。第5学年から第6学年は年間1冊となっている。 ・第一教材(第1学年の最初に出合う教材)及び入門期に該当する教材は、24ページ扱っている。 ・教材とは別に紹介している図書の点数は、第1学年92冊、第2学年83冊、第3学年92冊、第4学年100冊、第5学年91冊、第6学年92冊、合計550冊である。
教出	144	255	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年下巻の冒頭で「この 本で 学ぶ こと」、第2学年以上の冒頭で「〇年生で学ぶこと」というページを、それぞれ設定し、1年間の学習の見通しを領域別に示している。 ・第2学年以上の上巻の終末で「つながる ひろがる」というページを設定し、どのようなことを学習してきたのかを確かめたり、どのようなことができるようになったかをノートに書いたりするなどの活動を設定している。 ・第1学年から第5学年までの下巻の終末で「これまで これから」というページ、第6学年の下巻の終末では「出会った言葉をふり返ろう」というページを、それぞれ設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮している。また、見やすさや読みやすさに配慮したオリジナルフォントを採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなびリンク」を掲載し、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年から第6学年まで、上・下巻の2分冊となっている。 ・第一教材(第1学年の最初に出合う教材)及び第1学年の入門期に該当する教材は、22ページ扱っている。 ・教材とは別に紹介している図書の点数は、第1学年86冊、第2学年88冊、第3学年87冊、第4学年97冊、第5学年83冊、第6学年81冊、合計521冊である。
光村	96	198	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年以上の冒頭で「国語の学びを見わたそう」というページを設定し、「(学習や生活の中で)見通しもつ・問いをもつ」、「一人でじっくり考える」、「みんなでよく考える」、「ふりかえる」、「学習や生活にいかす」というような学習過程を示している。また、1年間の学習の見通しを領域別に示している。 ・第2学年以上で、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の単元で「確かめよう」、「見通しをもとう」、「ふりかえろう」という学習過程を示し、「読むこと」の単元では、「見通しをもとう」、「とらえよう—ふかめよう—まとめよう—ひろげよう」、「ふりかえろう」という学習過程を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインを採用している。また、児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用し、小さい文字には見やすくまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードを掲載し、学習の参考となる動画等の資料を、ウェブサイトで見ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年から第4学年までは、上・下巻の2分冊となっている。第5学年から第6学年は年間1冊となっている。 ・第一教材(第1学年の最初に出合う教材)及び第1学年の入門期に該当する教材は、24ページ扱っている。 ・教材とは別に紹介している図書の点数は、第1学年61冊、第2学年85冊、第3学年88冊、第4学年84冊、第5学年79冊、第6学年96冊、合計493冊である。
平均値	68.0	122.4				